

題名：カミナリ売ります

「ゴロゴロゴロ、ドッシャーン」

目が覚めた。カーテンを開けると稲妻が見えた。「バチバチ」頭の上の照明が消えた。寮の部屋の停電時にだけつく照明がついた。先生が「ただの停電だから寝なさい」と言った。「エアコンもファンも動かないのに一。」真っ暗でベットのハシゴを踏みはずしたらケガをするかもしれない。ベットから下りずその場で待つしかない。頭を枕の下にしてイルカのぬいぐるみを抱いて羊を数える。初めて寮で雷の停電があった時は怖くて寝れず朝まで起きていた。ここマレーシアでは雷はほぼ毎日あり停電も月に1回くらいはあるだから今はもう慣れっこだ。

川崎市に住んでいた時は停電を経験した事はない。日本では送配電が自動化されていて問題の場所をすぐに発見し、また切れた場所を迂回して電気を流す操作が遠隔でできるからだ。さらにメンテナンスを定期的に行って故障があったらメーカーと故障の原因を突き止めて次の予防に役立てているからだ

雷の電気は使えなかな？。調べてみたら今の技術では雷の電気を受け止めて貯めることは無理だが高電圧の雷になる前の雲の中にある静電気を集めることはできるらしい。私のアイデアは次の通りだ。人工衛星から気象情報と雷雲の位置を入手し自動操縦の飛行機を使い、金属棒を使って静電気を引き寄せ機内の蓄電池に貯める。静電気を集め終わったら学校の校庭に着陸する。校庭は野球場より広いから問題ない。自分たちでロボットアームを作り飛行機の蓄電池と学校の横の変電所をつなぎ電圧を調節して雷の電気を利用する。学校の寮では、オートロックのドアに使い、停電時に部外者が入ってこないようにし安心して眠れるようにする。モスクでは夜のお祈りの時間に、明るい所でお祈りができるようにする。そうやって雷の電気を売り出す。「10kW、2リングだよ〜」。でも孤児院や一人で家にいるママには無料で提供するつもり。売れるかな？

(788字)

氏名：渡部 翠(わたべ みどり)

学校名：Marlborough College Malaysia

学年：Year 5(イギリス式) (小学4年/日本式)